竈門炭治郎がみた大正の街並

レトロな建物

「鬼滅の刃」の舞台となった大正時代は、明治の欧米化がすすみ、二度の戦勝を経て、商工業が飛躍的に進んだ時代です。新聞・電話などの発達により、文化が大衆へと拡散した時代でした。洋風の公共建造物は地方にも建造され、それをモデルに庶民の洋風建築が広がりました。本格的な西洋建築というより、洋風建築のパーツを日本の家屋にアレンジしたものが主流だったようです。そのため、欧米の建築とは随分違った雰囲気があります。人々の身近に登場した洋風建築は、人々の心に刻み込まれましたが、戦争や老朽化などで激減しました。私たちは、この消えゆく洋風建築にノスタルジーを感じるのでしょう。大正のレトロな建物は、当時のハイカラに憧れた気風を楽しむ対象として、最適と思われます。西洋建築のパーツを知ることで、楽しみがさらに増します（写真下）。

炭治郎のうどん（四国学院大学の大学祭）。背景に、関東大震災で倒壊した浅草の凌雲閣が描かれている。

洋風と和風の建築

明治・大正の和風建築は、江戸時代の建物（ 7 ）とは異なり、ガラスやタイルなどの工業製品が使われ、２階建てが許されて大型化しました（ 2 ）。畳には絨毯が敷かれ、テーブルや椅子が置かれました。また、洋風建築にも和風の要素が残ったり、正面だけ洋風のものもありました（看板建築：写真下左）。

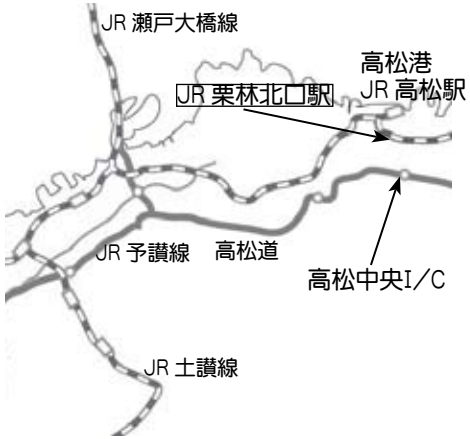
旧楽天堂医院（多度津町）

萬翠荘（松山市）

香川の鬼滅スポット

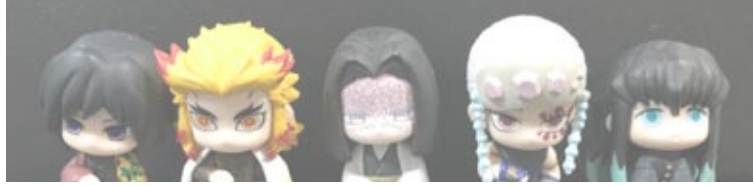
2021年、吾峠呼世晴氏の漫画「鬼滅の刃」が大人気となり、「全集中」という流行語も生まれました。鬼滅巡礼１では、鬼殺隊の活躍が想像できるスポットを紹介しました。舞台は大正時代の日本というだけで詳細は明らかにされていませんが、任務のため炭治郎が上京する場面があります。人々で賑わう大正時代の浅草でうどんを食べていると、鬼舞辻無惨の気配を感じ、鬼殺隊員ではじめて鬼舞辻に出会います。今回は、高松近隣で大正レトロを感じるスポットを紹介します。

アクセス



JR 高松駅経由
JR栗林公園北口駅（高徳線）まで約５分
高松中央インターから車で約２０分

四国学院大学
空海カフェ２
観光学メジャー
香川県善通寺市文京町 3-2-1　760-8505
http://shigakuweb.jimdofree.com
印刷　株式会社　弘栄社



高松

鬼滅巡礼２

讃岐編

大正レトロを感じる

高松港玉藻防波堤灯台

四国村 異人館

7 栗林公園 掬月亭

2 高松城 披雲閣

全集中　鬼滅旅２

高松

1 高松港玉藻防波堤灯台

昭和39年点灯。透過ガラスブロック製で、灯全体が赤く輝きます。「せとしるべ」の愛称で市民に愛されています。うどん屋さんはありません。

3 北浜アリー

昭和初期に建造された倉庫群を活用したレトロ感あふれる若者向けの商業施設。遠くには、赤い灯台がみえます。

4 琴電 片原町駅

市内の日本最大クラスのアーケードは、鉄道線路を横切ります。ゆっくりと間近を通り抜ける電車に、往時の西洋文化を感じます。

6 商工奨励館(栗林公園)

明治以降、和風建造物は大きくなり、和洋折衷の趣きがあります。どことなく、蝶屋敷に似ているような・・。

番外 JR 琴平駅

大正11年建造。現駅舎は昭和11年竣工。切り妻玄関の半円窓が美しい。無限列車の整備棟がありそうな雰囲気が・・。

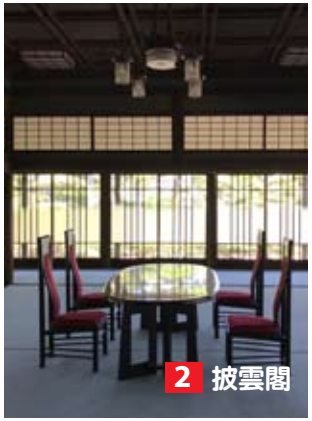
栗林公園にたたずむ掬月亭（鬼滅旅1で紹介）は、17世紀建造の数寄屋風書院造りの茶亭で、その風情は鬼滅の刃のお舘様の屋敷に似ています。同じ和風建築でも、大正時代に建てられた披雲閣（写真上）は随分趣きが異なります。

いろいろな洋風建築

5 百十四銀行高松支店

大正15年竣工の２階建て鉄筋コンクリートの建物を装飾する石造風のタイルとコリント風の列柱にレトロを感じます。関東大震災後に東京で流行した正面玄関のみが洋風の建物（裏面写真）も、身近な商店街に数多く建てられましたが、今では懐かしい風景です。

6 商工奨励館(栗林公園)

この和風建物は明治32年の建造で、西洋技術を使った大空間や大きな２階、ガラスの建具を備え、江戸期の掬月亭よりも巨大です。高松城の披雲閣は大正６年建造の平屋で、ガラスの建具の中に洋風の部屋が設けられ、レトロ感が漂います（写真下）。

二つのレトロ